

奈良市観光の現状と課題

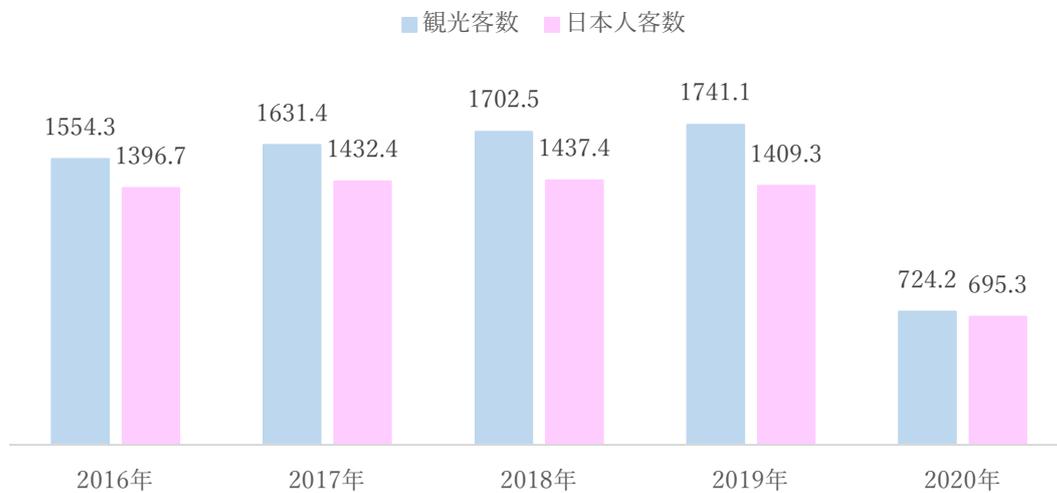
1.奈良市観光の現状

奈良市観光入込客数の推移

本市の観光入込客数は、コロナ以前の2016年から2019年までは“増加傾向”にあった。その主な原因は訪日外国人の増加であり、日本人客数は2018年の1437.4万人がピークであり高止まりの傾向にあった。

【奈良市観光入込客数推移】

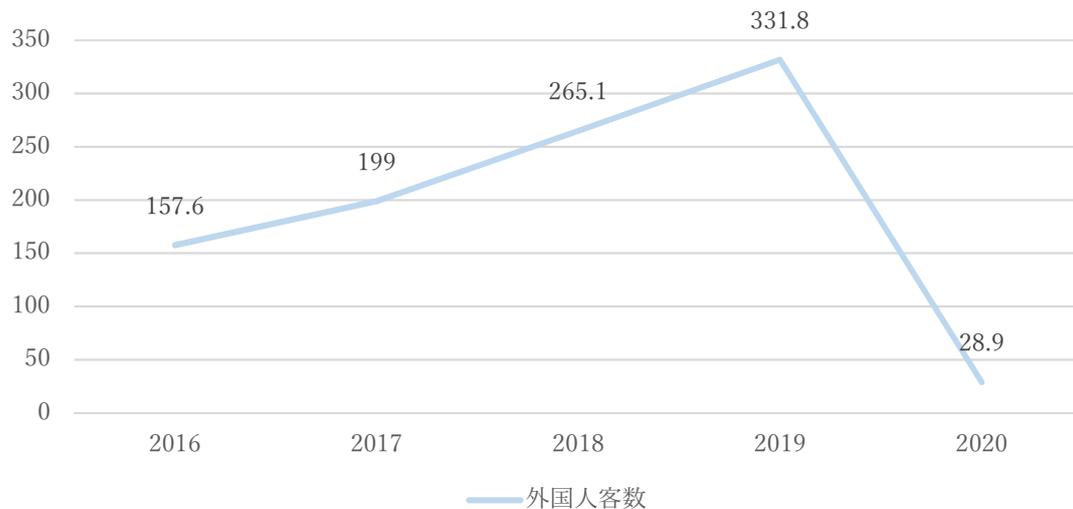
単位：万人



出典：奈良市観光入込客数調査報告書

【外国人観光客数】

単位：万人

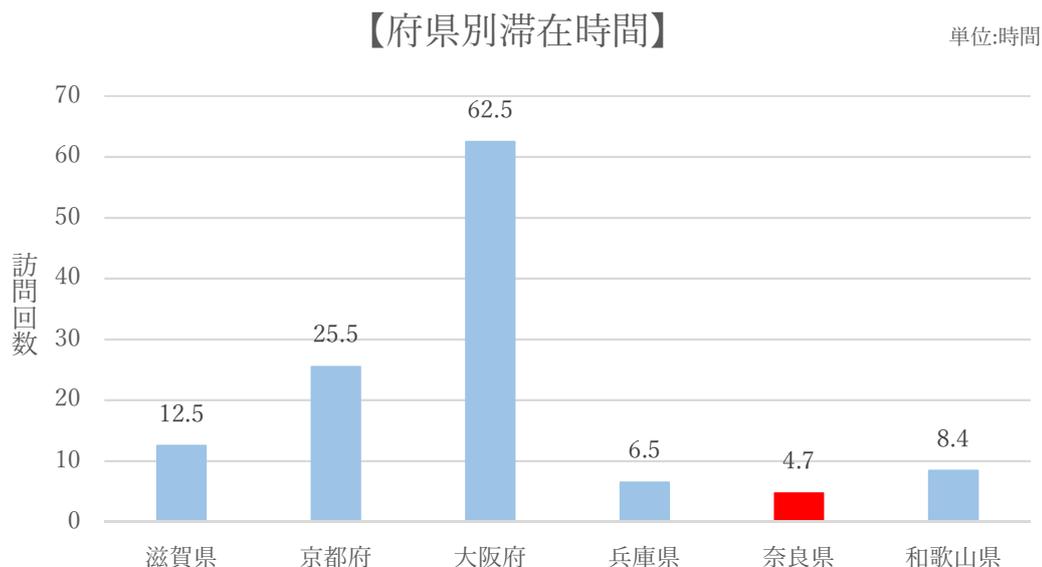


出典：奈良市観光入込客数調査報告書

2.奈良市観光の課題

(1) 滞在時間の延長

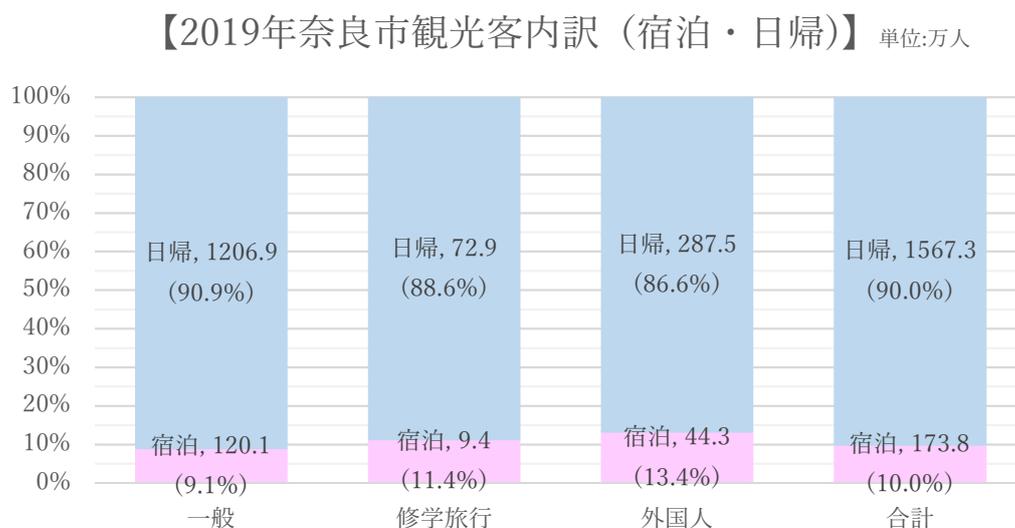
平成 29 (2017) 年 4 月~12 月の訪日外国人旅行者向け関西統一交通バス「KANSAI ONE PASS」の延べ IC カード利用回数 (1,367,823 回) の府県別滞在時間の分析によると、奈良県が約 5 時間 (日帰り) で最少であった。関西への訪問者を奈良市へ少しでも多く滞在させ、滞在時間を延ばす必要がある。



出典:国土交通省「訪日外国人旅行者向け 関西統一交通バス「KANSAI ONE PASS」のデータ分析結果」

(2) 宿泊者数の増加

奈良市への観光客の約 90% は日帰りであり、宿泊にまで至っていない。宿泊に繋がる観光コンテンツ造成により、宿泊者数の増加させる必要がある。



出典：奈良市観光入込客数調査報告書

(3) 観光消費額の増加

観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると奈良県における日本人観光客消費単価はコロナ以前より、全国的にも低迷している。

	順位 (47 都道府県)	観光消費額
2018 年	44 位	¥17,830-
2019 年	46 位	¥13,640-
2020 年	40 位	¥15,250-

出典:観光庁「旅行・観光消費動向調査」を元に奈良市作成

【参考】観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき奈良県が実施した調査結果によると、2019 年の奈良県における 1 人あたりの観光消費額は、宿泊が 24,807 円、日帰りが 4,569 円となっている。

(4) 域内消費の促進

奈良市の観光産業集積地域における観光産業事業所の売上総額(2017 年)のうち、観光客による売上分(観光売上額)は 391 億円、売上総額に占める観光売上額の割合(観光売上割合)は 65%である。

業種別では宿泊事業者の観光売上額が 324 億円(全体の 83%)、飲食事業者が 47 億円(全体の 12%)、小売事業者が 14 億円(全体の 4%)となっている。

「観光売上額・観光売上割合」

業種	観光売上 (万円)	観光売上割合	業種別構成比
宿泊	3,236,936	65.9%	82.8%
飲食	473,392	75.9%	12.1%
小売	139,957	47.1%	3.6%
その他	60,564	32.4%	1.5%
全体	3,910,849	65.0%	100.0%

観光産業事業者による観光売上額から市内に還元されるもの(市内還元額:観光売上額のうち、市外に流出しない額で、利益、人件費(市内分)、仕入材料費)・外注費(市内分)の合計は 202 億円であり、観光売上額の 52%に当たる。市内還元額を業種別にみると、宿泊事業者によるものが 162 億円(市内還元率 50%)、飲食事業者によるものが 30 億円(市内還元率 63%)、小売事業者によるものが 7 億円(市内還元率 47%)であり、地域内に観光売上額が循環する割合が高いと言える。

「市内還元額・市内還元率」

業種	還元額 (万円) (観光売上分)	業種別構成比	還元率
宿泊	1,619,004	80.3%	50.5%
飲食	295,947	14.7%	62.5%
小売	65,733	3.3%	47.0%
その他	36,612	1.8%	60.5%
全体	2,017,296	100.0%	51.6%

注:その他は理容、マッサージ、レンタル衣装など。

注:観光売上割合の把握が困難な交通事業者は含まない。

注:調査結果から母集団全体の数値を拡大推計しているため、各数値は少数点以下もある。

このため表中の各業種の数値の合計と全体の数値が一致しない場合がある。

出典:「奈良市観光総合調査:観光産業実態調査」

3.まとめ

このように奈良市観光の現状（観光入込客数）と主な課題（滞在時間・宿泊者数・観光消費額・域内消費）について取り上げてきた。これら以外にも、新型コロナウイルス感染症により、本市の観光産業は大きな影響を受けており、今後、失われた観光需要を回復していくためには、新しい生活様式に対応した安全・安心な奈良旅のスタイルの普及・定着とともに、変化する観光客のニーズに合わせ、本市の持つ多様な歴史・文化という大きな魅力をより一層磨き上げることが重要となってきます。

そこで、新型コロナウイルス感染症の収束期を見据え、課題（滞在時間・宿泊者数・観光消費額・域内消費など）を突破する斬新な観光コンテンツを募集し、その造成・磨き上げに係る費用の一部を予算の範囲内において補助します。